

超巨大イヌワシの巣

(NPO法人人と自然の会・かわせみの会)

赤保正文・垂井ふさ子・西村節子・能勢公紀・藤原玉規・鳥越俊彦・木村公之・西部泰弘
石倉則雄・大西則和・清田けい子・市川あけみ・久保和恵・橋本泰和・上総栄一・林幸子
乾慎一・荒木ミサ子・三宅敏雄・田中良人・土肥範昭

今年度はひとくはく収蔵資料展『学んで魅せる標本展』が開催されました。私たちは博物館の常設展示の標本以外に何か際立つ標本を展示できないかを考えました。浮かんできたのが**超巨大イヌワシの巣**です。布野先生の指導のもと実寸大のイヌワシの巣を製作し、ひとくはくに展示することになったのです。10年間常設展示していただく標本を目指してさあ製作開始です。

9月下旬からアカマツの枯れ木集めを始めました。幸いなことに深田公園はアカマツの枯れ木が豊富でした。10人余りで汗を流しながら5～6日ほど人海戦術で集めました。10月の初めにはかわせみの会で伊吹山へイヌワシの観察に行き、待望のイヌワシに出会いました。多くの枯れ木が必要なので自主的に各自の家の近くで枯れ木を集めてひとくはくへ持って来てもらいました。巣の展示だけではインパクトに欠けるので、巣の背後に実物大のイヌワシの写真を飾ることにしました。何度もお願いし、やっと奈良県在住の四宮孝章氏の写真をお借りすることができました。11月10日やっとイヌワシの巣の製作です。その日は13名の方が集まりました。ご多忙の三橋先生に台座を作っていただき、3階入口付近にイヌワシの巣を設置します。段ボール50箱余りを運びこみ、横幅3m20cm～奥行3m、高さ80センチの見事な巣を1日で完成させることができました。巣の背後のイヌワシの写真がさらに迫力を倍加してくれています。11月15日のドリームスタジオスペシャルでは来館者の方々に兵庫県のイヌワシの危機的状況を解説し、関心を持っていただけたと思います。

『共生のひろば』が近づいてきました。一般市民の方々にもっともっとイヌワシに関心を持って欲しいとの思いから、【超巨大イヌワシの巣】で『共生のひろば』に参加することになりました。1月5日のかわせみの会のミーティングで、子ども達でもわかりやすい展示をコンセプトにすることが決まりました。ポスターには写真を多く使い、文字は大きく簡潔にする、小冊子は家族で読めるように、イヌワシの生態と危機的状況を絵と解説でわかりやすくまとめることに努めました。やっとのことでみんなでポスターと小冊子を作り上げることができました。

2月11日の『共生のひろば』展示会場では来場された皆様にイヌワシのことをもっと知っていただくように会員みんなで説明しました。またポスターも小冊子も大変好評でした。小冊子については兵庫県立大学の学生団体「いきものずかん」の方からは是非これを紙芝居にしてひとくはくで兵庫のイヌワシのことを広くPRしていきませんかとの声をもらいました。

現在兵庫県に住むイヌワシは8羽とのことです。つがいは2組しか観察されていません。恐ろしいことに雛が育った数は20年余りでゼロ！このままでは兵庫のイヌワシは絶滅してしまいます。遅かれ早かれ全国のイヌワシも同じ道をたどるかもしれません。イヌワシの餌となるノウサギの住める環境(里山)を再生していかなければなりません。ノウサギの住める環境こそが生物多様性の高い豊かな自然なのです。

自宅にいますと、18時過ぎに、布野先生から「館長賞を受賞しましたよ」との信じられない連絡が入りました。会員一人ひとりの努力の賜物の結晶が投票された方々に評価されたのでしょうか。今でも信じられない気持ちです。

最後に指導をいただいた布野先生、台座を製作していただいた三橋先生に改めて深謝する次第です。

